

多摩南ゾーン 研究主題

「 見つけよう 深めよう 生かそう 音楽を 」

多摩南ゾーン 研究部長 湊 りか

1 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編では、音楽科で育成を目指す資質・能力は「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定され、「音楽的な見方・考え方」（音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること）を働かせて、その資質・能力を育成することが示された。

令和元年度 全日本音楽教育研究会 全国大会 東京大会において東京都小学校音楽教育研究会が提案した、研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」では、音楽とのつながり、人とのつながりの中で、児童が音楽的に深まり、音楽を聴いたり表現したりする喜びをもち、人間として豊かに育つことを目指して取り組まれた。

学習指導要領全面実施の年度にあたる多摩南ゾーン研究大会では、東京大会の研究の流れを受け継いでいく。そこで大会に向けて、多摩南ゾーンの音楽専科教諭がどのような意識をもって日々の授業に取り組んでいるのかについてのアンケート調査を行った。その結果、回答があった約9割の教諭が既習の学習を生かした指導をしていること、約8割が主体的に音楽に取り組む手立てを講じていることが分かった。また、約7割が対話的な学びを意識し、ペアやグループ、全体で意見交流をしていた。記述式の回答からもワークシートなどを用いて、自己評価や相互評価、振り返りをしているなど、児童が主体的に取り組み、対話を取り入れた学習を意識して行っていることが分かった。しかし、「児童が主体的に見通しをもって取り組むには指導計画や手立てをどのように考えたらよいのか」「対話的な学びを意識して実践しているが、学びの深まりにつながっているのか」「自己評価や相互評価、ワークシートなどを取り入れているが、児童が学びを自覚し、次の学習につなげるにはどうしたらよいのか」「学んだことをその後の生活や社会に生かすにはどのようにすればよいのか」などの課題が挙げられた。

上記の内容を受け、ゾーンの児童の実態やどのような児童の姿を目指すかについて話し合った。児童が音や音楽に興味をもって主体的に学んでほしい、音楽的な見方・考え方を働かせ、自分にとって価値のある音や音楽を見つけてほしい、そしてどのように取り組んでいくかを考え、試行錯誤したり、友達と思いや意図、音楽に対する考えを意見交換したりして、学びを広げ深めてほしい、という願いから、次のような児童像を目指すこととした。

○主体的に、音楽のよさや面白さ、目指す音楽を見付ける子

○協働する中で、音楽的な見方・考え方を働かせ、学びを広げ深める子

○音楽に親しみ、学んだことを次の学習やその後の生活に生かす子

これらの児童像を実現するために研究のキーワードを次のように設定した。

「見つけよう」児童が音や音楽に深く印象をもったり、楽しいと感じたりするような出会い方を設定する。その出会いから音楽との関わりを深める学習過程を工夫することで、児童が自ら音楽の楽しさ、よさ、面白さ、目指す音楽を見付け、見通しをもち、主体的に学習に取り組んでほしいという願いを込めた。

「深めよう」音楽的な見方・考え方を働かせ、友達や教師、地域の方や専門家など様々な人との関わりや先哲の考えを手掛かりにし、学びを広げ深める。その際、自分の中で音や音楽と

対話し、表現や考えを再構築する。これらの対話を取り入れた学習を通し、音楽表現を高めたり、味わって聴いたりすることにつなげ、学びを深めたいと考えた。

「生かそう」学習を振り返り、学んだことを自覚して、次の学習に生かすようにする。また、身に付けた学びをその後の生活や社会などの様々な場面へとつなげ、生かせるようにしたいと考えた。

以上から、**研究主題「見つけよう 深めよう 生かそう 音楽を」**を設定した。

2 研究の内容

本研究では、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行い、目指す児童像の実現に向かうために、次の3つの研究の視点を設定する。

視点1 「見つけよう」主体的な学びの視点からの学習過程の工夫

児童が目指す音や音楽、学び方を見付け、音楽的な見方・考え方を働かせながら、主体的に知識及び技能を習得し、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にすることで、学習の充実を図る。

◇音や音楽との出会いの場の工夫

本研究では、児童が音楽へのあこがれや「こんなふうに表示したい」「もっと聴き深めたい」と学習への期待をもち、主体的に取り組み、学びを深めていく姿を目指す。そのため教師は、児童の実態を踏まえ、身に付けてほしい資質・能力を明確にした教材研究をする。その教材が児童にとって魅力のある教材となり、学習を深めたいという思いをもつことができるように、教材提示の仕方や導入を工夫する。

学習の実際には、表現及び鑑賞を通して、音や音楽のよさや面白さを見付けられるように、児童が聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりや、曲想と音楽の構造との関わりについて考えるようにする。そのために、比較する、関連付ける、体の動きを伴った活動を効果的に取り入れる。

◇見通し、振り返りを大切にした学習の充実

児童が出会った音楽に対して思いをもつとともに、学習への見通しをもつようにする。目指す音楽を表現したり深く聴いたりするために、今までの学習を生かし、必要となる知識や技能を習得し、学びを深めるという一連の過程を把握し取り組むようにする。授業の途中や終わり、題材の最後などに学習を振り返り、自身の学びや変容を自覚したり、次の学習につながる課題を見付けたりして、主体的に学んでいくようにする。そのために、見直しをもつ場面、振り返りをする場面での教師の働き掛けを工夫し、板書や掲示物、ワークシートなどを活用する。

視点2 「深めよう」学びを広げ深める、対話を生かした学習の充実

児童が様々な人との関わりや先哲の考えを手掛かりとして、学びを広げ、音楽的な見方・考え方を働かせながら、音や音楽との対話で学びを深めるために、次の手立てを工夫する。

◇児童同士の対話を生かした学習活動の工夫

学習内容や活動のねらいを明確にし、実態に応じて学習形態（ペア・グループ・全体など）を工夫する。音や音楽について考えたことを友達に話したり、音楽表現を聴き合ったりして交流する中で、思いや意図、音楽に対する考えを明確にする。そして友達の考えや表現のよさに気付き、共有したり、共感したりすることで学びを広げるようにする。

自分の考えをもつことが難しい児童には、交流の内容を板書やワークシートなど可視化することで、気付きや思いが広がるようにする。

◇学びを深める教師の関わり方の工夫

児童の実態から、音や音楽、言葉による対話を生かした学習の場面で、どのような思いをもち、表現をし、発言するのかを予想し、児童が音楽的な見方・考え方を働かせながら学びを深めるような働きかけや言葉かけを工夫する。

児童が感じ取ったり考えたりした発言や記述、工夫した表現を教師が価値付けし、音や音楽、言葉で共有する。その過程で音楽を表す語彙を増やし、理解を深め、音楽表現を高めたり、味わって聴いたりすることができるようにする。

◇様々な人との交流、音や音楽との対話による考えや表現の再構築

地域の方、専門家との交流を通して音楽のよさや美しさを味わったり、新たな知識を得たりする。また、先哲の考えを手掛かりにするなど、様々な人との関わりの中で学びを広げるようにする。その際、自分の考えや表現を見直したり、自分の中で音や音楽で試行錯誤したりして、考えや表現を再構築し、学びを深める。

視点3 「生かそう」学びを生かし、つなげる指導と評価の工夫

音楽科の授業で学んだことを次の学習に生かす、生活や社会の中の音や音楽との関わりを考える、学校内及び学校外の生活に生かすなど、児童が学びを生かし、つなげることができる指導と評価を行う。

◇見通しをもった指導と評価

題材の評価規準は学習指導要領の指導事項と関連付けて作成する。その際、どのような学習場面で評価するのか、具体的評価場面と評価方法を示すことで、指導と評価の一体化を図る。また、「学びが深まった児童の具体の姿」「努力を要する状況への手立て」を想定し、指導計画に記載することで、一人一人の児童の状況に対応し、見通しをもった指導と評価を行う。児童の振り返りを見取り、児童への支援や働きかけ、指導計画の修正に生かすようにする。

◇学びのつながりを考慮した年間指導計画と学習指導案の作成

児童が既習の学習を生かし、生活や社会の中の音や音楽との関わりを考えられる年間指導計画や学習指導案を立案する。その際、各領域や分野の内容の配分、題材の前後のつながりを考慮し、〔共通事項〕を要として関連を図るようにする。

以上の3つの研究の視点を踏まえて、学習過程に位置付け、図式化した。

